

第6回

再臨待望聖会

日本の霊的覚醒 ユダヤ人の救い メシアの再臨

「エデンの園から新天新地まで」



特別講師：モッテル・バルストン教授

講師・通訳：中川健一



ハーベスト・タイム・ミニストリーズ

無断複製・転載を禁じます

目次

「エデンの園から新天新地まで」	2
はじめに	2
I. エデン契約	6
II. アダム契約	6
III. ノア契約	8
IV. アブラハム契約	10
V. モーセ契約（モーセからメシアの犠牲まで）	14
VI. 新しい契約	20
神の計画の中にある時代区分（ディスペンセーション）一覧	24
賛美	26

「エデンの園から新天新地まで」

The Covenants of God in His Plan for the Ages

神の時代に対する計画と聖書的契約

モッテル・バルストン

はじめに

I. 「時代々の計画」があることの聖書的根拠 — 詩篇 2：1～6、33：10～11、エレミヤ 29：10～11

A. 神は人類にご自分を啓示してくださる。イザヤ 48：16

B. イスラエルの神は秩序の神であって、混乱の神ではない。レビ 23 章、1 歴代誌 28 章

C. 神は信者に理解してほしいと望んでおられる。ヨハネ 7：15～17

II. 定義・概要

A. ディスペンセーション：神が信者に対して特定の生活原則を定めた期間。

「ディスペンセーションとは、神がご自分の目的を実現していく中で出現する統治体制」 — チャールズ・ライリー

「ディスペンセーションとは神が世界を統治する方法で、ご自分の目的を世界の歴史において実現していく中で出現する」 — レナルド・シャワー

B. 聖書的契約：神と人々の間で結ばれる法的契約

1. 条件付契約：契約が継続されるかどうかは両方の当事者にかかっている。条件付契約はすべて終了している。

2. 無条件契約：神が条件を付けることなく宣言した契約。無条件契約は今も継続中である。

聖書箇所

詩篇 2：1～6

1 なぜ国々は騒ぎ立ち、国民はむなしくつぶやくのか。2 地の王たちは立ち構え、治める者たちは相ともに集まり、【主】と、主に油をそそがれた者にと逆らう。3 「さあ、彼らのかせを打ち碎き、彼らの綱を、解き捨てよう。」4 天の御座に着いている方は笑い、主はその者どもをあざけられる。5 ここに主は、怒りをもって彼らに告げ、燃える怒りで彼らを恐れおののかせる。6 「しかし、わたしは、わたしの王を立てた。わたしの聖なる山、シオンに。」

詩篇 33：10～11

10 【主】は国々のはかりごとを無効にし、国々の民の計画をむなしくされる。11 【主】のはかりごととはとこしえに立ち、御心の計画は代々に至る。

エレミヤ 29：10～11

10 まことに、【主】はこう仰せられる。「バビロンに七十年の満ちるころ、わたしはあなたがたを顧み、あなたがたにわたしの幸いな約束を果たして、あなたがたをこの所に帰らせる。11 わたしはあなたがたのために立てている計画をよく知っているからだ。——【主】の御告げ——それはわざわざではなくて、平安を与える計画であり、あなたがたに将来と希望を与えるためのものだ。

イザヤ 48：16

「わたしに近づいて、これを聞け。わたしは初めから、隠れた所で語らなかった。それが起こった時から、わたしはそこにいた。」今、神である主は私を、その御霊とともに遣わされた。

レビ 23 章（1～4 節のみ引用）

1 ついで【主】はモーセに告げて仰せられた。2 「イスラエル人に告げて言え。あなたがたが聖なる会合として召集する【主】の例祭、すなわちわたしの例祭は次のとおりである。3 六日間は仕事をしてもよい。しかし七日目は全き休みの安息、聖なる会合の日である。あなたがたは、いっさいの仕事をしてはならない。この日はあなたがたがどこに住んでいても【主】の安息日である。4 あなたがたが定期的に召集しなければならない聖なる会合、すなわち【主】の例祭は次のとおりである。……

1 歴代誌 28 章（1～3 節のみ引用）

1 さて、ダビデはイスラエルのすべてのつかさ、すなわち、各部族のつかさ、王に仕える各組のつかさ、千人隊の長、百人隊の長、王とその子らが所有している財産、家畜全体の係長たち、宦官たち、勇士たち、つまり、すべての勇士をエルサレムに召集した。2 ダビデ王は立ち上がって、こう言った。「私の兄弟たち、私の民よ。私の言うことを聞きなさい。私は【主】の契約の箱のため、私たちの神の足台のために、安息の家を建てる志を持っていた。私は建築の用意をした。3 しかし、神は私に仰せられた。『あなたはわたしの名のために家を建ててはならない。あなたは戦士であって、血を流してきたからである。』……

ヨハネ 7：15～17

15 ユダヤ人たちは驚いて言った。「この人は正規に学んだことがないのに、どうして学問があるのか。」16 そこでイエスは彼らに答えて言われた。「わたしの教えは、わたしのものではなく、わたしを遣わした方のものです。17 だれでも神のみこころを行おうと願うなら、その人には、この教えが神から出たものか、わたしが自分から語っているのかがわかります。」

C. 聖書を字義どおりに解釈するアプローチでは、以下を真理と認める。

1. 「聖書の言葉を理解できるのであれば、それ以外の意味を探そうとしない。それゆえ、どの単語でも第一義的に、通常どおりの、一般的で、文字どおりの意味を取る。ただし、前後の文脈や、関連聖句や基本的な真理と照らしてはっきりと別の意味だとわかる場合だけを例外とする」 — デイビッド・L・クーパー博士「**解釈学の黄金律**」

聖書が比喻として記している場合は比喻的に読む。それ以外は、文字どおりの意味に解釈する。

2. イスラエルと「教会」を明確に区別する。アブラハム契約が取り消し不可能な無条件契約であることを認める。
3. 漸進的啓示。神の人間に対するメッセージは一時（いちどき）に与えられたのではなく、いくつもの時代を経て、さまざまな出来事が起こっていく中で与えられてきたものである。

MEMO

I. エデン契約

- A. 聖書箇所 — 創世記 1：28～30、2：15～17、ホセア 6：7
- B. 契約の当事者
- C. 契約の条項
 - 1. 生めよ。ふえよ。
 - 2. 地に満ち、地を従わせよ。
 - 3. 人類に生き物を支配する権威が与えられた。
 - 4. 菜食のみが許された。
 - 5. エデンの園を耕し、守る責任
 - 6. 善悪を知る知識の木から取って食べてはならない。
 - 7. 取って食べる時に罰が与えられる。
- D. 現状

II. アダム契約

- A. 聖書箇所 — 創世記 3：14～19
- B. 契約の当事者
- C. 契約の条項
 - 1. 蛇
 - 2. サタン
 - 3. 女
 - 4. 人類
- D. 現状

聖書箇所

創世記 1：28～30

28 神は彼らを祝福された。神は彼らに仰せられた。「生めよ。ふえよ。地を満たせ。地を従えよ。海の魚、空の鳥、地をはうすべての生き物を支配せよ。」 29 神は仰せられた。「見よ。わたしは、全地の上にあつて、種を持つすべての草と、種を持って実を結ぶすべての木をあなたがたに与える。それがあなたがたの食物となる。 30 また、地のすべての獣、空のすべての鳥、地をはうすべてのもので、いのちの息のあるもののために、食物として、すべての緑の草を与える。」 そのようになった。

創世記 2：15～17

15 神である【主】は人を取り、エデンの園に置き、そこを耕させ、またそこを守らせた。 16 神である【主】は人に命じて仰せられた。「あなたは、園のどの木からでも思いのまま食べてよい。 17 しかし、善悪の知識の木からは取って食べてはならない。それを取って食べるとき、あなたは必ず死ぬ。」

ホセア 6：7

ところが、彼らはアダムのように契約を破り、その時わたしを裏切った。

創世記 3：14～19

14 神である【主】は蛇に仰せられた。「おまえが、こんな事をしたので、おまえは、あらゆる家畜、あらゆる野の獣よりものろわれる。おまえは、一生、腹ばいで歩き、ちりを食べなければならない。 15 わたしは、おまえと女との間に、また、おまえの子孫と女の子孫との間に、敵意を置く。彼は、おまえの頭を踏み砕き、おまえは、彼のかかとにかみつく。」 16 女にはこう仰せられた。「わたしは、あなたのうめきと苦しみを大いに増す。あなたは、苦しんで子を産まなければならない。しかも、あなたは夫を恋慕うが、彼は、あなたを支配することになる。」 17 また、人に仰せられた。「あなたが、妻の声に聞き従い、食べてはならないとわたしが命じておいた木から食べたので、土地は、あなたのゆえにのろわれてしまった。あなたは、一生、苦しんで食を得なければならない。 18 土地は、あなたのために、いばらとあざみを生えさせ、あなたは、野の草を食べなければならない。 19 あなたは、顔に汗を流して糧を得、ついに、あなたは土に帰る。あなたはそこから取られたのだから。あなたはちりだから、ちりに帰らなければならない。」

III. ノア契約

- A. 聖書箇所 — 創世記 9：1～17
- B. 契約の当事者
- C. 契約の条項
 - 1. 再び地に満ちよ。
 - 2. 動物に人への恐れが入った。
 - 3. 人の食事は制限が取り去られ、雑食となった
 - 4. 人は血を食べることが禁じられた。
 - 5. 人類に死刑の実施が認められた。
 - 6. 人類は二度と洪水で滅ぼされないという神の約束
 - 7. 契約のしるしは虹
- D. 現状

聖書箇所

創世記 9：1～17

¹ それで、神はノアと、その息子たちを祝福して、彼らに仰せられた。「生めよ。ふえよ。地に満ちよ。² 野の獣、空の鳥、——地の上を動くすべてのもの——それに海の魚、これらすべてはあなたがたを恐れておのこのう。わたしはこれらをあなたがたにゆだねている。³ 生きて動いているものはみな、あなたがたの食物である。緑の草と同じように、すべてのものをあなたがたに与えた。⁴ しかし、肉は、そのいのちである血のあるままで食べてはならない。⁵ わたしはあなたがたのいのちのためには、あなたがたの血の価を要求する。わたしはどんな獣にでも、それを要求する。また人にも、兄弟である者にも、人のいのちを要求する。⁶ 人の血を流す者は、人によって、血を流される。神は人を神のかたちにお造りになったから。⁷ あなたがたは生めよ。ふえよ。地に群がり、地にふえよ。」⁸ 神はノアと、彼といっしょにいる息子たちに告げて仰せられた。⁹ 「さあ、わたしはわたしの契約を立てよう。あなたがたと、そしてあなたがたの後の子孫と。¹⁰ また、あなたがたといっしょにいるすべての生き物と。鳥、家畜、それにあなたがたといっしょにいるすべての野の獣、箱舟から出て来たすべてのもの、地のすべての生き物と。¹¹ わたしはあなたがたと契約を立てる。すべて肉なるものは、もはや大洪水の水では断ち切られない。もはや大洪水が地を滅ぼすようなことはない。」¹² さらに神は仰せられた。「わたしとあなたがた、およびあなたがたといっしょにいるすべての生き物との間に、わたしが代々永遠にわたって結ぶ契約のしるしは、これである。¹³ わたしは雲の中に、わたしの虹を立てる。それはわたしと地との間の契約のしるしとなる。¹⁴ わたしが地の上に雲を起こすとき、虹が雲の中に現れる。¹⁵ わたしは、わたしとあなたがたとの間、およびすべて肉なる生き物との間の、わたしの契約を思い出すから、大水は、すべての肉なるものを滅ぼす大洪水とは決してならない。¹⁶ 虹が雲の中にあるとき、わたしはそれを見て、神と、すべての生き物、地上のすべて肉なるものとの間の永遠の契約を思い出そう。」¹⁷ こうして神はノアに仰せられた。「これが、わたしと、地上のすべての肉なるものとの間に立てた契約のしるしである。」

IV. アブラハム契約

- A. 聖書箇所 — 創世記 12 : 1～3、13 : 14～17、15 : 1～21、16 : 11～12、22 : 15～18、1 歴代誌 16 : 13～18
- B. 契約の当事者
- C. 契約の条項
 - 1. アブラハムから偉大な国（イスラエル）が出てくる。
 - 2. アブラハムに土地が約束された。
 - 3. アブラハムからその他にも多くの国が出てくる。
 - 4. アブラハムは祝福され、その名は大いなるものとなる。
 - 5. イスラエルを祝福する者は祝福される。
 - 6. イスラエルを呪う者は呪われる。
 - 7. アブラハムによって、地上のすべての民族が祝福される。
 - 8. アブラハムには、妻サラによってひとりの息子が与えられる。
 - 9. この契約のしるしは割礼。
 - 10. 契約を受け継ぐのはイサク、ヤコブの家系で、イシュマエルやエサウではない。
- D. その他の契約の土台となる
 - 1. 土地の条項 — 土地の契約
 - 2. 子孫の条項 — ダビデ契約
 - 3. 祝福の条項 — 新しい契約

聖書箇所

創世記 12：1～3

¹ 【主】はアブラムに仰せられた。「あなたは、あなたの生まれ故郷、あなたの父の家を出て、わたしが示す地へ行きなさい。 ² そうすれば、わたしはあなたを大いなる国民とし、あなたを祝福し、あなたの名を大いなるものとしよう。あなたの名は祝福となる。 ³ あなたを祝福する者をわたしは祝福し、あなたをのろう者をわたしはのろう。地上のすべての民族は、あなたによって祝福される。」

創世記 13：14～17

¹⁴ ロトがアブラムと別れて後、【主】はアブラムに仰せられた。「さあ、目を上げて、あなたがいる所から北と南、東と西を見渡しなさい。 ¹⁵ わたしは、あなたが見渡しているこの地全部を、永久にあなたとあなたの子孫とに与えよう。 ¹⁶ わたしは、あなたの子孫を地のちりのようにならせる。もし人が地のちりを数えることができれば、あなたの子孫をも数えることができよう。 ¹⁷ 立って、その地を縦と横に歩き回りなさい。わたしがあなたに、その地を与えるのだから。」

創世記 15：1～21

¹ これらの出来事の後、【主】のことばが幻のうちにアブラムに臨み、こう仰せられた。「アブラムよ。恐れるな。わたしはあなたの盾である。あなたの受ける報いは非常に大きい。」 ² そこでアブラムは申し上げた。「神、主よ。私に何をお与えになるのですか。私には子がありません。私の家の相続人は、あのダマスコのエリエゼルになるのでしょうか。」 ……⁴ すると、【主】のことばが彼に臨み、こう仰せられた。「その者があなたの跡を継いではならない。ただ、あなた自身から生まれ出て来る者が、あなたの跡を継がなければならぬ。」 ⁵ そして、彼を外に連れ出して仰せられた。「さあ、天を見上げなさい。星を数えることができるなら、それを数えなさい。」さらに仰せられた。「あなたの子孫はこのようになる。」 ⁶ 彼は【主】を信じた。主はそれを彼の義と認められた。……

創世記 16：11～12

¹¹ さらに、【主】の使いは彼女に言った。「見よ。あなたはみごもっている。男の子を産もうとしている。その子をイシュマエルと名づけなさい。【主】があなたの苦しみを聞き入れられたから。 ¹² 彼は野生のろばのような人となり、その手は、すべての人に逆らい、すべての人の手も、彼に逆らう。彼はすべての兄弟に敵対して住もう。」

創世記 22：15～18

¹⁵ それから【主】の使いは、再び天からアブラハムを呼んで、 ¹⁶ 仰せられた。「これは【主】の御告げである。わたしは自分にかけて誓う。あなたが、このことをなし、あなたの子、あなたのひとり子を惜しまなかったから、 ¹⁷ わたしは確かにあなたを大いに祝福し、あなたの子孫を、空の星、海辺の砂のように数多く増し加えよう。そしてあなたの子孫は、その敵の門を勝ち取るであろう。 ¹⁸ あなたの子孫によって、地のすべての国々は祝福を受けるようになる。あなたがわたしの声に聞き従ったからである。」

1 歴代誌 16：13～18

¹³ 主のしもベイスラエルのすえよ。主に選ばれた者、ヤコブの子らよ。 ¹⁴ この方こそ、私たちの神、【主】。そのさばきは全地にわたる。 ¹⁵ 覚えよ。主の契約をとこしえに。お命じになったみことばは千代にも及ぶ。 ¹⁶ その契約はアブラハムと結んだもの、イサクへの誓い。 ¹⁷ 主はヤコブのためにそれをおきてとして立て、イスラエルに対する永遠の契約とされた。 ¹⁸ そのとき主は仰せられた。「わたしはあなたがたの相続地としてあなたに、カナン之地を与える。」

- E. メシアであるイエスが生まれる法的根拠として引用されている。ルカ 1：46～55、1：67～79
- F. 現状

聖書箇所

ルカ 1：46～55

⁴⁶ マリヤは言った。「わがたましいは主をあがめ、⁴⁷ わが霊は、わが救い主なる神を喜びたたえます。⁴⁸ 主はこの卑しいはしのために目を留めてくださったからです。ほんとうに、これから後、どの時代の人々も、私をしあわせ者と思うでしょう。⁴⁹ 力ある方が、私に大きなことをしてくださいました。その御名は聖く、⁵⁰ そのあわれみは、主を恐れかしこむ者に、代々にわたって及びます。⁵¹ 主は、御腕をもって力強いわざをなし、心の思いの高ぶっている者を追い散らし、⁵² 権力ある者を王位から引き降ろされます。低い者を高く引き上げ、⁵³ 飢えた者を良いもので満ち足らせ、富む者を何も持たせないで追い返されました。⁵⁴ 主はそのあわれみをいつまでも忘れないで、そのしもベイスラエルをお助けになりました。⁵⁵ 私たちの父祖たち、アブラハムとその子孫に語られたとおりです。」

ルカ 1：67～79

⁶⁷ さて父ザカリヤは、聖霊に満たされて、預言して言った。⁶⁸ 「ほめたたえよ。イスラエルの神である主を。主はその民を顧みて、贖いをなし、⁶⁹ 救いの角を、われらのために、しもベダビデの家に立てられた。⁷⁰ 古くから、その聖なる預言者たちの口を通して、主が話してくださったとおりに。⁷¹ この救いはわれらの敵からの、すべてわれらを憎む者の手からの救いである。⁷² 主はわれらの父祖たちにあわれみを施し、その聖なる契約を、⁷³ われらの父アブラハムに誓われた誓いを覚えて、⁷⁴⁻⁷⁵ われらを敵の手から救い出し、われらの生涯のすべての日に、きよく、正しく、恐れなく、主の御前に仕えることを許される。⁷⁶ 幼子よ。あなたもまた、いと高き方の預言者と呼ばれよう。主の御前に先立って行き、その道を備え、⁷⁷ 神の民に、罪の赦しによる救いの知識を与えるためである。⁷⁸ これはわれらの神の深いあわれみによる。そのあわれみにより、日の出がいと高き所からわれらを訪れ、⁷⁹ 暗黒と死の陰にすわる者たちを照らし、われらの足を平和の道に導く。」

V. モーセ契約（モーセからメシアの犠牲まで）

- A. 聖書箇所 — 出エジプト 20 章から申命記の終わりまで
- B. 契約の当事者
- C. 契約の条項
 - 1. 契約の目的 — 出エジプト 19：1～8
 - 2. モーセの律法の限界
 - a. イスラエルにしか適用されないという限界 — 出エジプト 24：1～8、申命記 7：6～12、33：4、詩篇 147：19～20

聖書箇所

出エジプト 19：1～8

1 エジプトの地を出たイスラエル人は、第三の月の新月のその日に、シナイの荒野に入った。2 彼らはレフィディムを旅立って、シナイの荒野に入り、その荒野で宿営した。イスラエルはそこで、山のすぐ前に宿営した。3 モーセは神のみもとに上って行った。【主】は山から彼を呼んで仰せられた。「あなたは、このように、ヤコブの家に言い、イスラエルの人々に告げよ。4 あなたがたは、わたしがエジプトにしたこと、また、あなたがたを鷲の翼に載せ、わたしのもとに連れて来たことを見た。5 今、もしあなたがたが、まことにわたしの声に聞き従い、わたしの契約を守るなら、あなたがたはすべての国々の民の中にあつて、わたしの宝となる。全世界はわたしのものであるから。6 あなたがたはわたしにとって祭司の王国、聖なる国民となる。これが、イスラエル人にあなたの語るべきことばである。」7 モーセは行って、民の長老たちを呼び寄せ、【主】が命じられたこれらのことばをみな、彼らの前に述べた。8 すると民はみな口をそろえて答えた。「私たちは【主】が仰せられたことを、みな行います。」それでモーセは民のことばを【主】に持って帰った。

出エジプト 24：1～8

1 主は、モーセに仰せられた。「あなたとアロン、ナダブとアビフ、それにイスラエルの長老七十人は、【主】のところに上り、遠く離れて伏し拝め。2 モーセひとり【主】のもとに近づけ。他の者は近づいてはならない。民もモーセといっしょに上ってはならない。」3 そこでモーセは来て、【主】のことばと、定めをことごとく民に告げた。すると、民はみな声を一つにして答えて言った。「【主】の仰せられたことは、みな行います。」4 それで、モーセは【主】のことばを、ことごとく書きしるした。そうしてモーセは、翌朝早く、山のふもとに祭壇を築き、またイスラエルの十二部族にしたがって十二の石の柱を立てた。5 それから、彼はイスラエル人の若者たちを遣わしたので、彼らは全焼のいけにえをささげ、また、和解のいけにえとして雄牛を【主】にささげた。6 モーセはその血の半分を取って、鉢に入れ、残りの半方を祭壇に注ぎかけた。7 そして、契約の書を取り、民に読んで聞かせた。すると、彼らは言った。「【主】の仰せられたことはみな行い、聞き従います。」8 そこで、モーセはその血を取って、民に注ぎかけ、そして言った。「見よ。これは、これらすべてのことばに関して、【主】があなたがたと結ばれる契約の血である。」

申命記 7：6～12

6 あなたは、あなたの神、【主】の聖なる民だからである。あなたの神、【主】は、地の面のすべての国々の民のうちから、あなたを選んでご自分の宝の民とされた。7 【主】があなたがたを恋慕って、あなたがたを選ばれたのは、あなたがたがどの民よりも数が多かったからではない。事実、あなたがたは、すべての国々の民のうちで最も数が少なかった。8 しかし、【主】があなたがたを愛されたから、また、あなたがたの先祖たちに誓われた誓いを守られたから、【主】は、力強い御手をもってあなたがたを連れ出し、奴隷の家から、エジプトの王パロの手からあなたを贖い出された。9 あなたは知っているのだ。あなたの神、【主】だけが神であり、誠実な神である。主を愛し、主の命令を守る者には恵みの契約を千代までも守られるが、10 主を憎む者には、これに報いて、主はたちどころに彼らを滅ぼされる。主を憎む者には猶予はされない。たちどころに報いられる。11 私が、きょう、あなたに命じる命令——おきてと定め——を守り行わなければならない。12 それゆえ、もしあなたがたが、これらの定めを聞いて、これを守り行うならば、あなたの神、【主】は、あなたの先祖たちに誓われた恵みの契約をあなたのために守り、

申命記 33：4

モーセは、みおしえを私たちに命じ、ヤコブの会衆の所有とした。

詩篇 147：19～20

19 主はヤコブには、みことばを、イスラエルには、おきてとさばきを告げられる。20 主は、どんな国々にも、このようには、なさらなかった。さばきについて彼らは知っていない。ハレルヤ。

- b. 一つの時代にしか適用されないという限界 — エレミヤ 31 : 31~34、ガラテヤ 3 : 19、23~26
- c. 罪をおおう力における限界 — ヘブル 10 : 1~4

聖書箇所

エレミヤ 31：31～34

³¹ 見よ。その日が来る。——【主】の御告げ——その日、わたしは、イスラエルの家とユダの家とに、新しい契約を結ぶ。³² その契約は、わたしが彼らの先祖の手を握って、エジプトの国から連れ出した日に、彼らと結んだ契約のようではない。わたしは彼らの主であったのに、彼らはわたしの契約を破ってしまった。——【主】の御告げ——³³ 彼らの時代の後に、わたしがイスラエルの家と結ぶ契約はこうだ。——【主】の御告げ——わたしはわたしの律法を彼らの中に置き、彼らの心にこれを書きしるす。わたしは彼らの神となり、彼らはわたしの民となる。³⁴ そのようにして、人々はもはや、『【主】を知れ』と言って、おのおの互いに教えない。それは、彼らがみな、身分の低い者から高い者まで、わたしを知るからだ。——【主】の御告げ——わたしは彼らの咎を赦し、彼らの罪を二度と思い出さないからだ。」

ガラテヤ 3：19、23～26

¹⁹ では、律法とは何でしょうか。それは約束をお受けになった、この子孫が来られるときまで、違反を示すためにつけ加えられたもので、御使いたちを通して仲介者の手で定められたのです。……²³ 信仰が現れる以前には、私たちは律法の監督の下に置かれ、閉じ込められていましたが、それは、やがて示される信仰が得られるためでした。²⁴ こうして、律法は私たちをキリストへ導くための私たちの養育係となりました。私たちが信仰によって義と認められるためなのです。²⁵ しかし、信仰が現れた以上、私たちはもはや養育係の下にはいません。²⁶ あなたがたはみな、キリスト・イエスに対する信仰によって、神の子どもです。

ヘブル 10：1～4

¹ 律法には、後に来るすばらしいものの影はあっても、その実物はないのですから、律法は、年ごとに絶えずささげられる同じいけにえによって神に近づいて来る人々を、完全にすることができないのです。² もしそれができたのであったら、礼拝する人々は、一度きよめられた者として、もはや罪を意識しなかったはずであり、したがって、ささげ物をすることは、やんだはずです。³ ところがかえって、これらのささげ物によって、罪が年ごとに思い出されるのです。⁴ 雄牛とやぎの血は、罪を除くことができません。

3. モーセ契約の廃棄 — [ローマ 6：14](#)、[7：4～6](#)、[10：4](#)、[ヘブル 7：11～19](#)
4. 「律法は終わった」ということに対する反対の声
 - a. 廃棄されたのは祭儀法だけである。
(答え：律法は全体で一つのもの。分割できない — [ヤコブ 2：10](#))
 - b. ヘブル語聖書は、モーセの律法は永遠の定めだと言っている。
(答え：ヘブル語の「オラム」は、一つの時代の終わりまで、という意味。[出 21：6](#)、[1 サムエル 1：22](#))
 - c. 律法がなければ、ユダヤ民族もなくなってしまう。
(答え：ユダヤ民族の存続を保証しているのはアブラハム契約。[創 12：3](#))
5. 律法の一部を「守る」ことは許されている — [ローマ 14 章](#)

D. 現状

聖書箇所

ローマ 6：14

というのは、罪はあなたがたを支配することがないからです。なぜなら、あなたがたは律法の下ではなく、恵みの下にあるからです。

ローマ 7：4～6

⁴ 私の兄弟たちよ。それと同じように、あなたがたも、キリストのからだによって、律法に対しては死んでいるのです。それは、あなたがたが他の人、すなわち死者の中からよみがえった方と結ばれて、神のために実を結ぶようになるためです。⁵ 私たちが肉にあったときは、律法による数々の罪の欲情が私たちのからだの中に働いていて、死のために実を結びました。⁶ しかし、今は、私たちは自分を捕らえていた律法に対して死んだので、それから解放され、その結果、古い文字にはよらず、新しい御霊によって仕えているのです。

ローマ 10：4

キリストが律法を終わらせられたので、信じる人はみな義と認められるのです。

ヘブル 7：11～19

¹¹ さて、もしレビ系の祭司職によって完全に到達できたのだったら、——民はそれを基礎として律法を与えられたのです——それ以上何の必要があって、アロンの位でなく、メルキゼデクの位に等しいと呼ばれる他の祭司が立てられたのでしょうか。¹² 祭司職が変われば、律法も必ず変わらなければなりませんが、¹³ 私たちが今まで論じて来たその方は、祭壇に仕える者を出したことの無い別の部族に属しておられるのです。¹⁴ 私たちの主が、ユダ族から出られたことは明らかですが、モーセは、この部族については、祭司に関する何を何も述べていません。¹⁵ もしメルキゼデクに等しい、別の祭司が立てられるのなら、以上のことは、いよいよ明らかになります。¹⁶ その祭司は、肉についての戒めである律法にはよらないで、朽ちることのない、いのちの力によって祭司となったのです。¹⁷ この方については、こうあかしされています。「あなたは、とこしえに、メルキゼデクの位に等しい祭司である。」¹⁸ 一方で、前の戒めは、弱く無益なために、廃止されましたが、¹⁹ ——律法は何事も全うしなかったのです——他方で、さらにすぐれた希望が導き入れられました。私たちはこれによって神に近づくのです。

ヤコブ 2：10

律法全体を守っても、一つの点でつまずくなら、その人はすべてを犯した者となったのです。

出エジプト 21：6

その主人は、彼を神のもとに連れて行き、戸または戸口の柱のところに連れて行き、彼の耳をきりで刺し通さなければならない。彼はいつまでも主人に仕えることができる。

1 サムエル 1：22

ハンナは夫に、「この子が乳離れし、私がこの子を連れて行き、この子が【主】の御顔を拝し、いつまでも、そこにとどまるようになるまでは」と言って、上って行かなかった。

創世記 12：3

「あなたを祝福する者をわたしは祝福し、あなたをのろう者をわたしはのろう。地上のすべての民族は、あなたによって祝福される。」

ローマ 14 章（1～3 節のみ引用）

¹ あなたがたは信仰の弱い人を受け入れなさい。その意見をさばいてはいけません。² 何でも食べてよいと信じている人もいますが、弱い人は野菜よりほかには食べません。³ 食べる人は食べない人を侮ってはいけないうし、食べない人も食べる人をさばいてはいけません。神がその人を受け入れてくださったからです。

VI. 新しい契約

- A. 聖書箇所 — エレミヤ 31 : 31～34、イザヤ 59 : 20～21、ヘブル 8 : 7～13、9 : 15、ルカ 22 : 20、2 コリント 3 : 6
- B. 契約の当事者

聖書箇所

エレミヤ 31：31～34

³¹ 見よ。その日が来る。——【主】の御告げ——その日、わたしは、イスラエルの家とユダの家とに、新しい契約を結ぶ。³² その契約は、わたしが彼らの先祖の手を握って、エジプトの国から連れ出した日に、彼らと結んだ契約のようではない。わたしは彼らの主であったのに、彼らはわたしの契約を破ってしまった。——【主】の御告げ——³³ 彼らの時代の後に、わたしがイスラエルの家と結ぶ契約はこうだ。——【主】の御告げ——わたしはわたしの律法を彼らの中に置き、彼らの心にこれを書きしるす。わたしは彼らの神となり、彼らはわたしの民となる。³⁴ そのようにして、人々はもはや、『【主】を知れ』と言って、おのおの互いに教えない。それは、彼らがみな、身分の低い者から高い者まで、わたしを知るからだ。——【主】の御告げ——わたしは彼らの咎を赦し、彼らの罪を二度と思い出さないからだ。」

イザヤ 59：20～21

²⁰ 「しかし、シオンには贖い主として来る。ヤコブの中のそむきの罪を悔い改める者のところに来る。」——【主】の御告げ——²¹ 「これは、彼らと結ぶわたしの契約である」と【主】は仰せられる。「あなたの上にあるわたしの霊、わたしがあなたの口に置いたわたしのことばは、あなたの口からも、あなたの子孫の口からも、すえのすえの口からも、今よりとこしえに離れない」と【主】は仰せられる。

ヘブル 8：7～13

⁷ もしあの初めの契約が欠けのないものであったなら、後のものが必要になる余地はなかったでしょう。⁸ しかし、神は、それに欠けがあるとして、こう言われたのです。「主が、言われる。見よ。日が来る。わたしが、イスラエルの家やユダの家と新しい契約を結ぶ日が。⁹ それは、わたしが彼らの父祖たちの手を引いて、彼らをエジプトの地から導き出した日に彼らと結んだ契約のようなものではない。彼らがわたしの契約を守り通さないで、わたしも、彼らを顧みなかったと、主は言われる。¹⁰ それらの日の後、わたしが、イスラエルの家と結ぶ契約は、これであると、主が言われる。わたしは、わたしの律法を彼らの思いの中に入れ、彼らの心に書きつける。わたしは彼らの神となり、彼らはわたしの民となる。¹¹ また彼らが、おのおのその町の者に、また、おのおのその兄弟に教えて、『主を知れ』と言うことは決してない。小さい者から大きい者に至るまで、彼らはみな、わたしを知るようになるからである。¹² なぜなら、わたしは彼らの不義にあわれみをかけ、もはや、彼らの罪を思い出さないからである。」¹³ 神が新しい契約と言われたときには、初めのものを古いとされたのです。年を経て古びたものは、すぐに消えて行きます。

ヘブル 9：15

こういうわけで、キリストは新しい契約の仲介者です。それは、初めの契約のときの違反を贖うための死が実現したので、召された者たちが永遠の資産の約束を受けることができるためなのです。

ルカ 22：20

食事の後、杯も同じようにして言われた。「この杯は、あなたがたのために流されるわたしの血による新しい契約です。」

2 コリント 3：6

神は私たちに、新しい契約に仕える者となる資格を下さいました。文字に仕える者ではなく、御霊に仕える者です。文字は殺し、御霊は生かすからです。

C. 契約の条項

1. まったく新しい契約であって、モーセ契約の焼き直しではない — エレミヤ 31：31～33
2. イスラエルの最終的救い — エレミヤ 31：33～37

D. 教会と新しい契約との関係

1. キリスト教界には、新しい契約はみな教会が引き継いだと主張する人々がいる。
2. 2つの新しい契約があると言う人々もいる。
3. 聖書が支持するのは、異邦人信者は新しい契約に「共に与る者」とする立場
 - a. イエスにあるユダヤ人信者はローマ 11 章の「残りの者（レムナント）
 - b. 異邦人信者はメシアのからだの一部であるが、ユダヤ人になるわけではない。創世記 12：3、イザヤ 49：6、エペソ 3：1～6、ローマ 11：1～29

E. 現状

聖書箇所

エレミヤ 31：31～33

³¹ 見よ。その日が来る。——【主】の御告げ——その日、わたしは、イスラエルの家とユダの家とに、新しい契約を結ぶ。³² その契約は、わたしが彼らの先祖の手を握って、エジプトの国から連れ出した日に、彼らと結んだ契約のようではない。わたしは彼らの主であったのに、彼らはわたしの契約を破ってしまった。——【主】の御告げ——³³ 彼らの時代の後に、わたしがイスラエルの家と結ぶ契約はこうだ。——【主】の御告げ——わたしはわたしの律法を彼らの中に置き、彼らの心にこれを書きしるす。わたしは彼らの神となり、彼らはわたしの民となる。

エレミヤ 31：33～37

³³ 彼らの時代の後に、わたしがイスラエルの家と結ぶ契約はこうだ。——【主】の御告げ——わたしはわたしの律法を彼らの中に置き、彼らの心にこれを書きしるす。わたしは彼らの神となり、彼らはわたしの民となる。³⁴ そのようにして、人々はもはや、『【主】を知れ』と言って、おのおの互いに教えない。それは、彼らがみな、身分の低い者から高い者まで、わたしを知るからだ。——【主】の御告げ——わたしは彼らの咎を赦し、彼らの罪を二度と思い出さないからだ。」³⁵ 【主】はこう仰せられる。主は太陽を与えて昼間の光とし、月と星を定めて夜の光とし、海をかき立てて波を騒がせる方、その名は万軍の【主】。³⁶ 「もし、これらの定めがわたしの前から取り去られるなら、——【主】の御告げ——イスラエルの子孫も、絶え、いつまでもわたしの前で一つの民をなすことはできない。」³⁷ 【主】はこう仰せられる。「もし、上の天が測られ、下の地の基が探り出されるなら、わたしも、イスラエルのすべての子孫を、彼らの行ったすべての事のために退けよう。——【主】の御告げ——

創世記 12：3

「あなたを祝福する者をわたしは祝福し、あなたをのろう者をわたしはのろう。地上のすべての民族は、あなたによって祝福される。」

イザヤ 49：6

主は仰せられる。「ただ、あなたがわたしのしもべとなって、ヤコブの諸部族を立たせ、イスラエルのとどめられている者たちを帰らせるだけではない。わたしはあなたを諸国の民の光とし、地の果てにまでわたしの救いをもたらす者とする。」

エペソ 3：1～6

¹ こういうわけで、あなたがた異邦人のためにキリスト・イエスの囚人となった私パウロが言います。² あなたがたのためにと私がいただいた、神の恵みによる私の務めについて、あなたがたはすでに聞いたことでしょう。³ 先に簡単に書いたとおり、この奥義は、啓示によって私に知らされたのです。⁴ それを読めば、私がキリストの奥義をどう理解しているかがよくわかるはずです。⁵ この奥義は、今は、御霊によって、キリストの聖なる使徒たちと預言者たちに啓示されていますが、前の時代には、今と同じようには人々に知らされていませんでした。⁶ その奥義とは、福音により、キリスト・イエスにあって、異邦人もまた共同の相続者となり、ともに一つのからだに連なり、ともに約束にあずかる者となるということです。

ローマ 11：1～29

(P.25 に掲載)

神の計画の中にある時代区分（ディスペンセーション）一覧

1. 無垢の時代 — 天地創造から墮落まで — 創 1：28～3：8
2. 良心の時代 — 墮落からノアの洪水まで — 創 3：9～8：14
3. 人間による統治の時代 — ノアの洪水からバベルの塔まで — 創 8：15～11：9
4. 約束の時代・族長時代 — アブラハムの召命から律法の授与まで — 創 12：1～出 18：27
5. 律法の時代 — 律法の授与からメシアの犠牲まで — 出 19：1～使 1：26
6. 恵みの時代 — ペンテコステの日から大患難まで — 使 2：1～黙 19：21
7. 御国の時代・千年王国 — メシアの再臨から最後の審判まで — 黙 20：1～10

聖書箇所

ローマ 11：1～29

¹ すると、神はご自分の民を退けてしまわれたのですか。絶対にそんなことはありません。この私もイスラエル人で、アブラハムの子孫に属し、ベニヤミン族の出身です。² 神は、あらかじめ知っておられたご自分の民を退けてしまわれたわけではありません。それともあなたがたは、聖書がエリヤに関する個所で言っていることを、知らないのですか。彼はイスラエルを神に訴えてこう言いました。³ 「主よ。彼らはあなたの預言者たちを殺し、あなたの祭壇をこわし、私だけが残されました。彼らはいま私のいのちを取ろうとしています。」⁴ ところが彼に対して何とお答えになりましたか。「バアルにひざをかがめていない男子七千人が、わたしのために残してある。」⁵ それと同じように、今も、恵みの選びによって残された者がいます。⁶ もし恵みによるのであれば、もはや行いによるものではありません。もしそうでなかったら、恵みが恵みでなくなります。⁷ では、どうなるのでしょうか。イスラエルは追い求めていたものを獲得できませんでした。選ばれた者は獲得しましたが、他の者は、かたくなにされたのです。⁸ こう書かれているとおりです。「神は、彼らに鈍い心と見えない目と聞こえない耳を与えられた。今日に至るまで。」⁹ ダビデもこう言います。「彼らの食卓は、彼らにとってわなとなり、網となり、つまずきとなり、報いとなれ。¹⁰ その目はくらんで見えなくなり、その背はいつまでもかがんでおれ。」¹¹ では、尋ねましょう。彼らがつまづいたのは倒れるためなのでしょう。絶対にそんなことはありません。かえって、彼らの違反によって、救いが異邦人に及んだのです。それは、イスラエルにねたみを起こさせるためです。¹² もし彼らの違反が世界の富となり、彼らの失敗が異邦人の富となるのなら、彼らの完成は、それ以上の、どんなにかすばらしいものを、もたらすことでしょう。¹³ そこで、異邦人の方々に言いますが、私は異邦人の使徒ですから、自分の務めを重んじています。¹⁴ そして、それによって何とか私の同国人にねたみを引き起こさせて、その中の幾人でも救おうと願っているのです。¹⁵ もし彼らの捨てられることが世界の和解であるとしたら、彼らの受け入れられることは、死者の中から生き返ることではなくて何でしょう。¹⁶ 初物が聖ければ、粉の全部が聖いのです。根が聖ければ、枝も聖いのです。¹⁷ もしも、枝の中のあるものが折られて、野生種のオリーブであるあなたがその枝に混じってつがれ、そしてオリーブの根の豊かな養分をともに受けているのだとしたら、¹⁸ あなたはその枝に対して誇ってはいけません。誇ったとしても、あなたが根をささえているのではなく、根があなたをささえているのです。¹⁹ 枝が折られたのは、私がつぎ合わされるためだ、とあなたは言うでしょう。²⁰ そのとおりです。彼らは不信仰によって折られ、あなたは信仰によって立っています。高ぶらないで、かえって恐れなさい。²¹ もし神が台木の枝を惜しまれなかったとすれば、あなたをも惜しまれないでしょう。²² 見てごらんなさい。神のいつくしみときびしさを。倒れた者の上にあるのは、きびしさです。あなたの上にあるのは、神のいつくしみです。ただし、あなたがそのいつくしみの中にとどまっていればであって、そうでなければ、あなたも切り落とされるのです。²³ 彼らであっても、もし不信仰を続けなければ、つぎ合わされるのです。神は、彼らを再びつぎ合わすことができるのです。²⁴ もしあなたが、野生種であるオリーブの木から切り取られ、もとの性質に反して、栽培されたオリーブの木につがれたのであれば、これらの栽培種のものは、もっとたやすく自分の台木につがれるはずです。²⁵ 兄弟たち。私はあなたがたに、ぜひこの奥義を知っていただきたい。それは、あなたがたが自分で自分を賢いと思うことがないようするためです。その奥義とは、イスラエル人の一部がかたくなになったのは異邦人の完成のなる時までであり、²⁶ こうして、イスラエルはみな救われる、ということです。こう書かれているとおりです。「救う者がシオンから出て、ヤコブから不敬虔を取り払う。²⁷ これこそ、彼らに与えたわたしの契約である。それは、わたしが彼らの罪を取り除く時である。」²⁸ 彼らは、福音によれば、あなたがたのゆえに、神に敵対している者ですが、選びによれば、父祖たちのゆえに、愛されている者なのです。²⁹ 神の賜物と召命とは変わることがありません。

賛 美

Standing on the Promises さかえの王にます主の

「この天地は滅び去ります。しかし、わたしのことばは決して滅びることがありません」

(マタ 24 : 35)

R. Kelso Carter, 1886

1. さかえの王にます主の みことばに堅く立ちて
神には見栄えあれと 高く歌い叫ばん

立て 立て
永遠（とわ）に変わらぬみことばを
信じ 立て 神のみことばに立て

2. 世は変わるとも変わらぬ みことばに堅く立ちて
惑い恐れ of 嵐に 心は乱されじ

3. 全く罪をきよめんと みことばに堅く立ちて
君の血潮を受けしに 自由の身となれり

4. 愛もて主に結びつき みことばに堅く立ちて
悪魔に向かえば常に 勝ちえて余りあり

Hevenu Shalom Alechem ヘベヌ シャローム

(私たちはあなた方に平和をもって来ました)

ヘベヌ シャローム アレヘム
ヘベヌ シャローム アレヘム
ヘベヌ シャローム アレヘム
ヘベヌ シャローム シャローム シャローム アレヘム

【意味】 ヘベヌ シャローム アレヘム
(私たちはもって) (平和を) (あなた方に)

「輝け主の栄光」

愛の光かがやき 暗闇を照らしだす
わが主イエス世の光 自由を与えるちから
いのちの みことば

輝け 主の栄光 地の上に
こころを 燃やしたまえ
あふれよ 主の恵み あわれみ
この地を 生かしたまえ

Amazing Grace 驚くばかりの

「あなたがたが救われたのは、ただ恵みによるのです」

(エペソ 2:5)

John Newton, 1725 – 1807

1. 驚くばかりの 恵みなりき
この身の汚れを 知れるわれに
2. 恵みはわが身の 恐れを消し
任（まか）する心を 起こさせたり
3. 危険をも罣をも 避け得たるは
恵みのみわざと 言うほかなし
4. 御国につく朝 いよいよ高く
恵みの御神を たたえまつらん

Hinne Ma-tov Umanaim ヒネイ・マトーブ・ウマナйм

(兄弟が共に座すことはすばらしい)

「見よ。兄弟たちが一つになって共に住むことは、なんというしあわせ、なんという楽しさであろう」

(詩篇 133：1)

ヒネイ マトーブ ウマナйм
シェベト アヒーム ガム ヤハド
(繰り返し)

【意味】

ヒネイ マ トーブ ウマ ナйм
(見よ) (何と) (良いことだろう) (何と) (心地良い事か)
シェベトアヒーム ガム ヤハド
(兄弟たちが座し) (共に) (一緒に)

Hodu l'Adonai ki Tov ホドゥ ラドナイ キー トヴ 主に感謝せよ

「【主】に感謝せよ。主はまことにいつくしみ深い。その恵みはとこしえまで」(詩篇 136:1)

Batya Sebastian

ホドゥ ラドナイ キー トヴ
キ レ オラム ハスド
ホドゥ ラドナイ キー トヴ
キ レ オラム ハスド
ホドゥ ホドゥ ホドゥ ホドゥ ホドゥ ラドナイ キー トヴ
ホドゥ ホドゥ ホドゥ ホドゥ ホドゥ ラドナイ キー トヴ

主に 感謝せよ
主は まことに
いつくしみ 深くあり
恵みは とこしえに
感謝 感謝 感謝 感謝 感謝せよ 主に
感謝 感謝 感謝 感謝 感謝せよ 主に

【意味】

ホドゥ ラドナイ キー トヴ
(感謝せよ) (主に) (良い方に)
キ レ オラム ハスド※
(とこしえまで) (恵みは)

※「ハスド」は「契約に基づいた恵み」という意味

When the trumpet of the Lord shall sound 世の終わりのラッパ

「ラッパが鳴ると、死者は朽ちないものによみがえり、私たちは変えられるのです」

(1 コリ 15 : 52)

James M. Black, 1893

1. 世の終わりのラッパ鳴りわたるとき

世は常世（とこよ）の朝となり
救われし者は四方（よも）の隅（すみ）より
すべて主のもとに呼ばれん

その時わが名も その時わが名も
その時わが名も 呼ばれなば必ずあらん

2. そのとき眠れる聖徒よみがえり

栄えのからだに変わり
われらも共にたずさえ上げられ
空（そら）にて主に会いまつらん

3. 世のわざを終えて

天（あま）つ憩（いこ）いに招かるる日
近ければなおも 主の愛を世人（よびと）に語り
御栄えのために尽くさん